

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより No.11

令和8年1月26日(月)

2月 校長 玉置和也

小規模校のよさをみんなが感じている

寒い日が続いていますが、日差しは温かさを感じる日もあり、外に出て、ドッジボールやサッカー、縄跳び、おにごっこをする子どもたちがいる日々です。

12月の末、釜戸小学校の一大行事「花の木行事」を行いました。今年は全校縦割りグループが5つ、スローガンは、「それぞれの役割をやりきり、楽しい花の木活動にしよう」でした。遊びは「ボーリング」「宝探し」「人間まちがいさがし」「玉入れ」「びっくりパズル」の5つ、他と似た遊びにならないよう6年生が話し合い、遊びを決めました。1年生から6年生までのグループ全員で新聞紙を丸めてテープで巻いたり、パズルを作ったりと準備をしましたが、6年生が丁寧に教えていました。当日の遊びの役割分担、進行の練習もしました。約1か月の準備期間を経て、本番を迎えました。

「宝探し」の会場は、「急げ、急げ。」と言いながらカードの隠し場所を探し、他のグループも同じように会場準備をして、店番をする子と先に遊びを楽しむ子に分かれ、それぞれのグループの遊びをしました。店番をする子は「どうぞ楽しんで！」と言うように生き生きと説明をしていたり、倒れたボーリングのピンを回収したりするなど役割を果たしていました。遊びが終わると「おもしろかったよ。」と店番する子に一声かけて次の会場へ移動する姿が多くあり、本当に楽しんでいました。玉入れ籠を背中に背負う役目の6年生は、「楽しい。店番って楽しい。」と役割を果たす喜びを言葉に出していました。「人間まちがいさがし」の会場では、並んでいる5人の様子が始めと後でどう変わっているのかを当てる遊びをしていました。答えを見つけるグループは顔を寄せ合い「〇〇さんの持っていた辞書が違う辞書になってるんじゃない。」など、名前を言いながら答えを見つけっていました。そして、店番の子から「どこが間違いですか？」と言われると、誰もが「〇〇さんの□□が変わっています。」とまた名前を言って答えを言います。同じようにどのグループになっても「〇〇さんの～。」と名前を付けて答えを言います。全校の名前と顔が一致、お互いを知っているからみられた姿に心温まりました。6年生を中心に、釜小ならではの、すてきな2時間を過ごしました。



1月に入り、書き初めをしました。その後の朝活動で、廊下に掲示した書き初めを学年ごとに順番に見て回りました。ここでも「〇〇さんの字のここ、はねるところが上手。」「ぼくは1年生のころ、こんなに上手に書けなかった。」と言いながら、それぞれの学年のよさ、一人一人のよさを見つける書き初め見学をしました。

小規模、少人数だからこそできることがあります。それをうまく生かし、令和7年度最後の2か月、一人一人を大切にして釜戸小らしく、まとめていきます。